

《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎の報告が増えています。過去5年間で最大の流行だった 2006 年を凌ぐ立ち上がりです。今シーズンはすでに 14 件の集団感染の報告があり、10 件からノロウイルスが検出されています。
- 病原体定点医療機関から、8月から 11 月の検体で分離されたインフルエンザは、8検体全てがA香港でした。
- インフルエンザの集団感染の報告がありました。金沢区で市内初の施設閉鎖(学年閉鎖)があり、B型のワクチン株である Victoria のBrisbane類似が検出されています。泉区・都筑区でも集団感染が報告されています。

全数把握の対象

- 1 腸管出血性大腸菌感染症:11月の報告数は24日現在で1件です。感染経路は不明です。
- 2 レジオネラ症: 11月の報告数は24日現在で3件です。感染地は、現時点では不明です。レジオネラ症は、レジオネラ属菌の中でもレジオネラニューモフィラによることが多いです。本来土壌細菌ですが、冷却塔や給湯系等の人工環境にもアメーバを宿主として増殖しています。2005年以降、報告数が増加していますが、2004年にイムノクロマト法の尿中抗原検査が保険適用になり、2005年には市中肺炎診療ガイドライン(日本呼吸器学会)にレジオネラ検査が記載されたことが影響していると思われますが、公衆浴場等での集団感染も国内では報告されています。浴槽水の換水や適切な塩素濃度の他に、レジオネラの温床となるバイオフィーム対策に清掃・消毒も必要です。市内の公衆浴場の検査結果についてはこちらをご参考ください。  
横浜市衛生研究所検査月報:[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection\\_inf/201003/pdf/yokujou.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection_inf/201003/pdf/yokujou.pdf)
- 3 HIV感染症:11月の報告数は24日現在で3件です。10月以前の追加報告は5件ありました。その8件は全て男性で、そのうち7件は同性間性的接触によるものでした。全国では昨年のHIV感染者は1021人が報告され、AIDS患者は431人でした(42%)。感染者の国籍・性別では日本国籍の男性が88%を占め、その中で74%が同性間性的接触によるものでした。横浜では、今年に入って45件HIV感染の報告があり、AIDSを発症していたのは13件(29%)でした。4件が女性でした。19件(42%)が30歳代で、40歳代が10件、20歳代が8件、50歳代が5件、60歳代が3件でした。HIV感染症は、治療法が進歩しているとはいえ、体内から完全にウイルスを排除することが難しい慢性の感染症です。一番の対策は感染防止ですが、早い時期の感染確認によって、適切な治療と、パートナーへの感染防止が可能になります。機会を捉えた検診勧奨が必要です。HIV感染症につきましてはこちらをご参考ください。

国立感染症研究所HIV/AIDS2009年 <http://idsc.nih.gov/iasr/31/366/tpc366-j.html>

横浜市衛生研究所HIV感染症について <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/hiv.html>

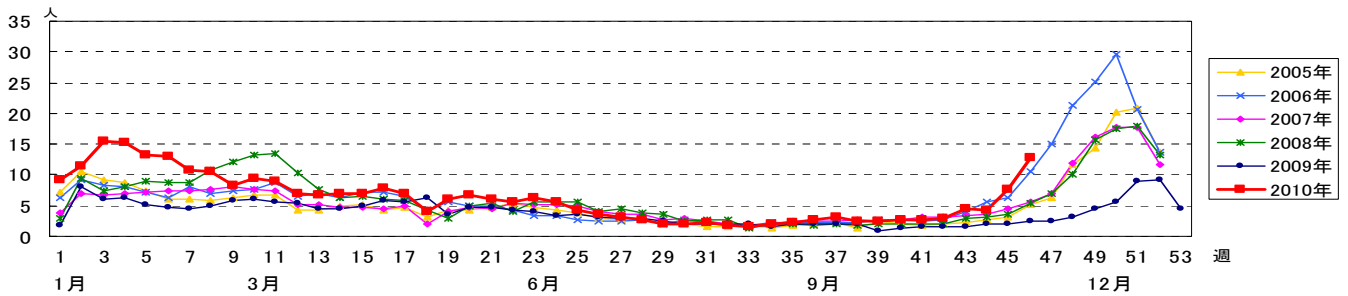
## 定点把握の対象

平成 22 年 10 月 18 日から 11 月 21 日まで(平成 22 年第 42 週から第 46 週まで。ただし、性感染症については平成 22 年 10 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

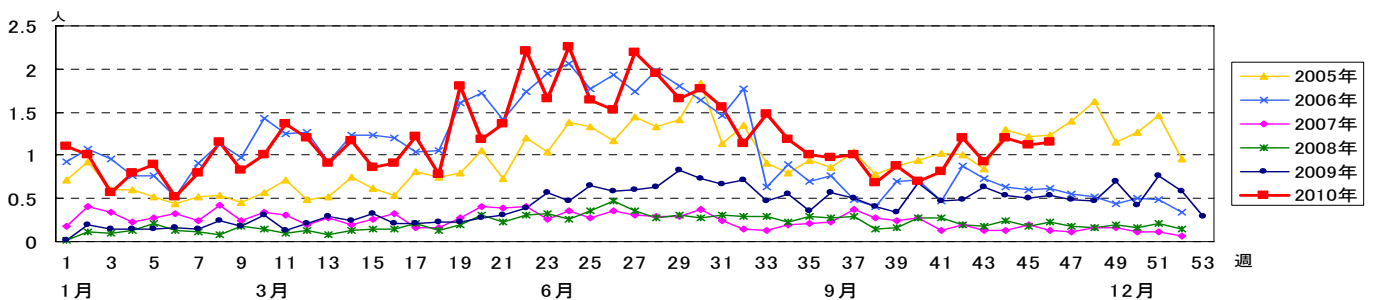
平成 22 年 週一月日対照表

第 42 週	10 月 18～24 日
第 43 週	10 月 25～31 日
第 44 週	11 月 1～ 7 日
第 45 週	11 月 8～14 日
第 46 週	11 月 15～21 日

- インフルエンザ:** 第 46 週では横浜市の定点あたりの報告数は 0.57 でした。行政区別では、流行のめやすである定点あたり 1 を超えた、瀬谷区 2.43、金沢区 2.25、泉区 1.71 が高めです。神奈川県域(横浜、川崎、相模原を除く:以下県域)では 0.42、東京都 0.51、全国 0.35 です。集団感染としては、金沢区で市内初施設閉鎖(学年閉鎖)がありました。B型 Victoria の Brisbane 類似が検出されています。泉区ではインフルエンザによる全園閉鎖がありました。都筑区でも学級閉鎖が見られています。型については検査中です。
- 感染性胃腸炎:** 第 46 週では市内定点あたりは 12.83 でした。行政区別では、旭区 31.00、瀬谷区 20.50、神奈川区 19.50 が高めです。県域 12.44、東京都 12.91、全国 10.64 でした。市内では集団感染の報告が 14 件あり、うち 10 件からウイルスが検出されていて、すべてがノロウイルス G II によるものでした。



- 水痘:** 第 46 週では市内定点あたりは 1.38 でした。行政区別では保土ヶ谷区が 6.50 と注意報域です。県域 1.17、東京都 0.95、全国 1.4 でした。
- 百日咳:** 第 46 週では市内定点あたり 0.04 でした。中区で 2 件、青葉区で 1 件の報告です。何れも 20 歳以上です。
- 流行性耳下腺炎:** 第 46 週では市内定点あたり 1.15 でした。行政区別では港南区 2.75、神奈川区 2.00 が高めです。県域 1.28、東京都 0.48、全国 1.16 です。



- 性感染症:** 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 10 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 17 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

10 月は、性器クラミジアは男性 25 例、女性 15 例、性器ヘルペスウイルス感染症は男性 8 例、女性 11 例でした。尖圭コンジローマは、男性 8 例、女性 3 例、淋菌感染症は、男性 11 例、女性 2 例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>